レジメンcode：	C85-37
適応がん種：	悪性リンパ腫
レジメン名：	G-Bendamustine
間隔：	4週間

備考

略名	抗がん剤（採用薬品名）	投与量	単位	投与法	投与日
	ガザイバ	1000	mg/body	点滴[*1]	[*2]d1
	ベンダムスチン(ﾄﾚｱｷｼﾝ)	90	mg/㎡	点滴(1時間)	[*3]d1、2

[*2]ガザイバは、1サイクル目は1週間毎に3回投与する(day1、8、15)。2サイクル目以降はday1に投与する。

[*3]ベンダムスチンは1サイクル目はday2、3に投与し、2サイクル目からday1、2に投与する。

*ガザイバ単独療法における維持療法：

G-Bendamustine6サイクル投与後(最終投与日)から2ヶ月後(56日±14日)にC85-38ガザイバ維持療法を開始し、病勢進行が認められるまで2ヶ月(56日±14日)毎、最大2年間にわたって継続投与する。

【1サイクル目】

【内服】

day1、8、15

1）	カロナール	500mg		2	錠
		内服		ガザイバ投与30分～60分前	

【注射】

day1、8、15

1）	デキサート	6.6mg		3	V
	ポララミン	5mg		1	A
	生食	50ml		1	本
		主管①	点滴	15分	内服前投薬確認
2）	生食	50ml		1	本
		主管②	点滴	1時間	
3）	ガザイバ			1000	mg/body インラインフィルター必須
	生食	210ml			
		主管③	点滴	[*1]・初回は12ml/hr→25ml/hr→37ml/hr→50ml/hr→62ml/hr→75ml/hr→87ml/hr→100ml/hrと30分毎に投与速度を上げる。 ・2回目以降は25ml/hr→50ml/hr→75ml/hr→100ml/hrと30分毎に投与速度を上げる。(前回の投与でGrade2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合)	
4）	生食	50ml		1	本
					フラッシュ
5）	生食			10	ml
					ルートロック

〈所要時間　約5時間〉

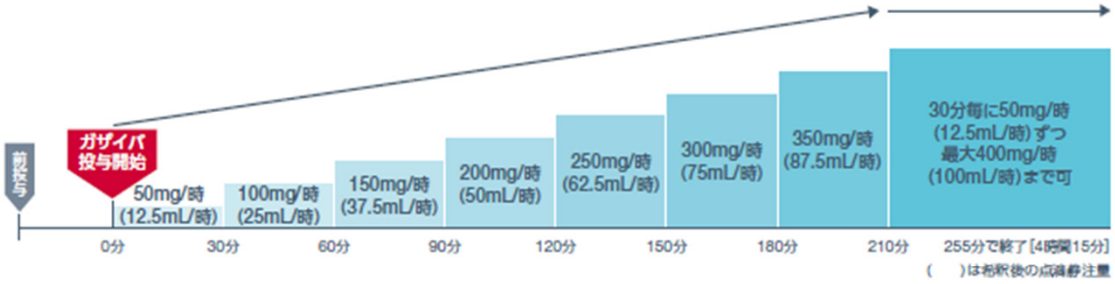
〈初回　約6時間〉

次ページあり

サイクル1

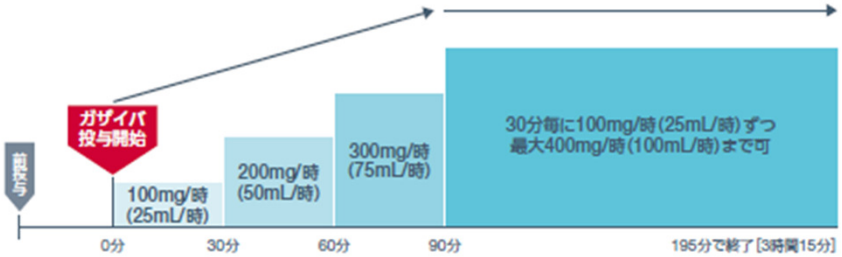
■ 初回投与時(1日目)

50mg/時(12.5mL/時)の速度で点滴静注を開始し、患者の状態を観察しながら、30分毎に50mg/時(12.5mL/時)ずつ最大400mg/時(100mL/時)まで上げることができます。(➡P115 Q3 ポンプの流量設定について)



■ 2回目以降(8、15日目)

前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、100mg/時(25mL/時)で投与を開始し、infusion reactionが認められない場合は、30分毎に100mg/時(25mL/時)ずつ最大400mg/時(100mL/時)まで上げることができます。



(　)は希釈後の点滴静注量

day2、3**【ケモセーフ使用】**

1) グラニセトロン	3mg		1	A	
デキサート	3.3mg		1	A	
デキサート	6.6mg		1	V	
生食	50ml		1	本	
	主管①	点滴	15分		
2) ベンダムスチン(トレアキシン)			90	mg/㎡	**【ケモセーフ使用】**
生食	250ml		1	袋	
	主管②	点滴	1時間		調製後、6時間以内に投与を終了すること
3) 生食	50ml		1	本	
					フラッシュ
4) 生食			10	ml	
					ルートロック

〈所要時間　約2時間 〉

次ページあり

【2～6サイクル目】

【内服】

day1

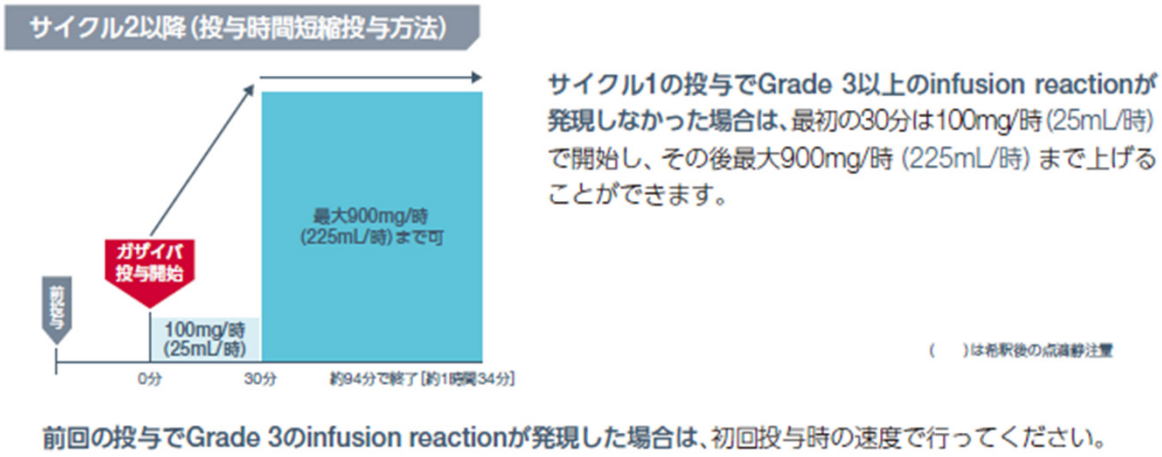
1）カロナール	500mg		2 錠	
	内服		ガザイバ投与30分～60分前	

【注射】

day1**【ケモセーフ使用】**

1）デキサート	6.6mg		3 V	
ポララミン	5mg		1 A	
生食	50ml		1 本	
	主管①	点滴	15分	内服前投薬確認
2）生食	50ml		1 本	
	主管②	点滴	1時間	
3）ガザイバ			1000 mg/body	インラインフィルター必須
生食	210ml			
	主管③	点滴	[*1]25ml/hr → 30分後 225ml/hrへ速度を上げる。	
			（サイクル1の投与でGrade3以上のinfusion reactionが発現しなかった場合）	
4）グラニセトロン	3mg		1 A	
生食	50ml		1 本	
	主管④	点滴	15分	
5）ベンダムスチン(トレアキシン)			90 mg/㎡	**【ケモセーフ使用】**
生食	250ml		1 袋	
	主管⑤	点滴	1時間	調製後、6時間以内に投与を終了すること
6）生食	50ml		1 本	
				フラッシュ
7）生食			10 ml	
				ルートロック

〈所要時間　約4時間30分 〉



前回の投与でGrade 3のinfusion reactionが発現した場合は、初回投与時の速度で行ってください。

次ページあり

day2【**ケモセーフ使用**】

1）グラニセトロン	3mg		1 A		
デキサート	3.3mg		1 A		
デキサート	6.6mg		1 V		
生食	50ml		1 本		
	主管①	点滴	15分		
2）ベンダムスチン(トレアキシン)			90 mg/㎡	【**ケモセーフ使用**】	
生食	250ml		1 袋		
	主管②	点滴	1時間	調製後、6時間以内に投与を終了すること	
3）生食	50ml		1 本		
				フラッシュ	

〈所要時間　約2時間〉

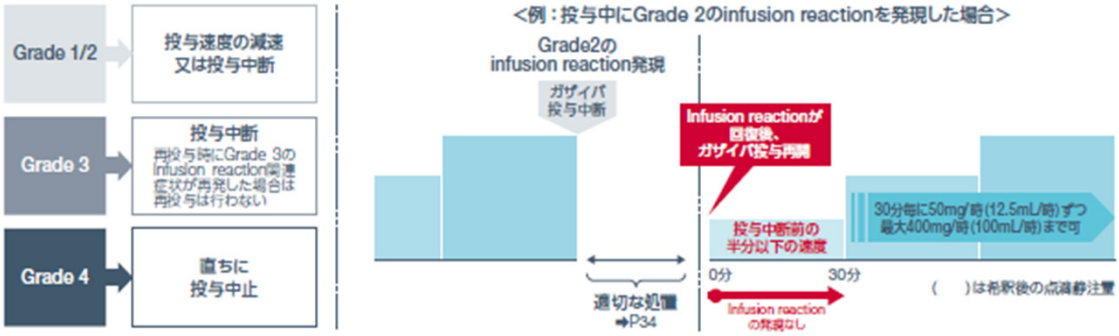
*抗ヒスタミン薬、解熱鎮痛剤、副腎皮質ホルモン等の投与を行った患者においても、重篤なinfusion reactionが発現したとの報告がある。

*腫瘍崩壊症候群の発現リスクが高いと考えられる患者に対しては、補液、フェブリクの投与を考慮する。

■ Infusion reaction発現による中断後、投与再開時の投与速度

サイクル1の速度で投与していた場合

Grade 3以下のinfusion reactionが発現した場合は、infusion reactionが回復後、投与中断前の半分以下の速度で投与を再開します。その後infusion reactionが認められない場合は、30分毎に50mg/時(12.5mL/時)ずつ最大400mg/時(100mL/時)まで投与速度を上げることができます。



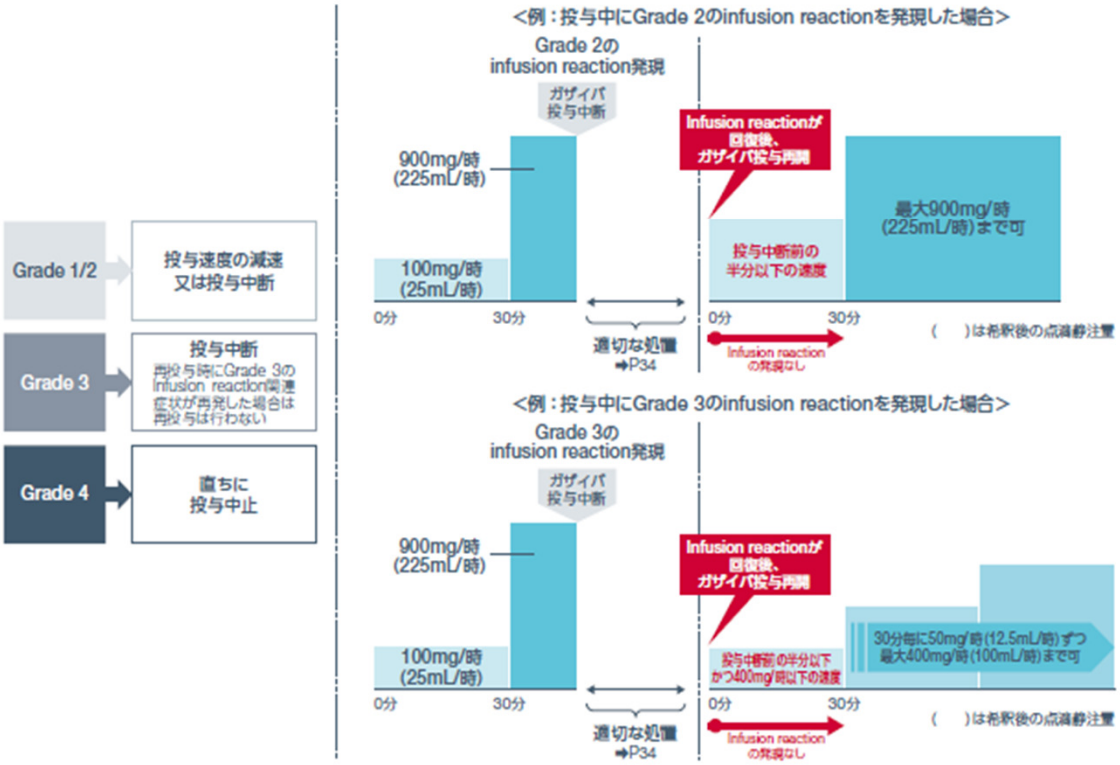
次ページあり

Infusion reaction発現による中断後、投与再開時の投与速度

投与時間短縮投与方法※で投与していた場合

Grade2以下のinfusion reactionが発現した場合は、infusion reactionが回復後、投与中断前の半分以下の速度で投与を再開します。その後infusion reactionが認められない場合は、最大900mg/時(225mL/時)まで上げることができます。

また、**Grade 3のinfusion reactionが発現した場合は、infusion reactionが回復後、投与中断前の半分以下かつ400mg/時(100mL/時)以下の速度で投与を再開**します。その後infusion reactionが認められない場合は、30分毎に50mg/時(12.5mL/時)ずつ最大400mg/時(100mL/時)まで投与速度を上げることができます。なお、次回投与は、初回投与時の速度で行ってください。



GradeはNCI-CTCAE v4.0に準じる。